

こすもスマイル 76号

発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和7年12月

～看護部長のあいさつ～



10月下旬に入り日暮れが早くなり、朝夕の涼しさや虫の声に長い酷暑の終わりと小さな秋を感じています。10月初旬に全国国保地域医療学会に参加しましたが、緑に囲まれた和歌山城を望む会場で、様々な取り組みや看護ケアの成果・研究に関する発表を聴き刺激を受けることができました。10月下旬の宮崎県国保地域医療学会では、看護師3名が日頃の看護の成果をまとめ発表する予定です。

当院では、安全対策のため面会制限を継続しておりご不自由をおかけしていますが、皆様のご理解とご協力に感謝いたします。



看護部では、現在2名の認定看護師が特定行為研修を修了し、組織横断的に活動しています。2024年4月に医師の働き方改革が施行され、どの施設においてもタスクシェア/シフトや医療DX等が推進されていると思います。当院でも特定行為研修修了者や認定看護師など看護スペシャリストの活躍の場が拡大していますが、多くの看護スペシャリストの育成には限界があります。そこで、特定の専門分野に特化せず、幅広い知識・技術・経験を持ち、患者さんの状況や多様な医療現場に対応できる看護師「ジェネラリストナース」の育成強化こそが必要になると思います。地域中核病院の看護部の使命として、地域の医療、保健・福祉への貢献および予測される労働人口の減少に対応できるような、スペシャリスト、ジェネラリスト、看護管理者等の看護人材育成をめざしたいと思います。

小林市立病院 看護部長 武田 愛

【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



救急科・総合診療科紹介

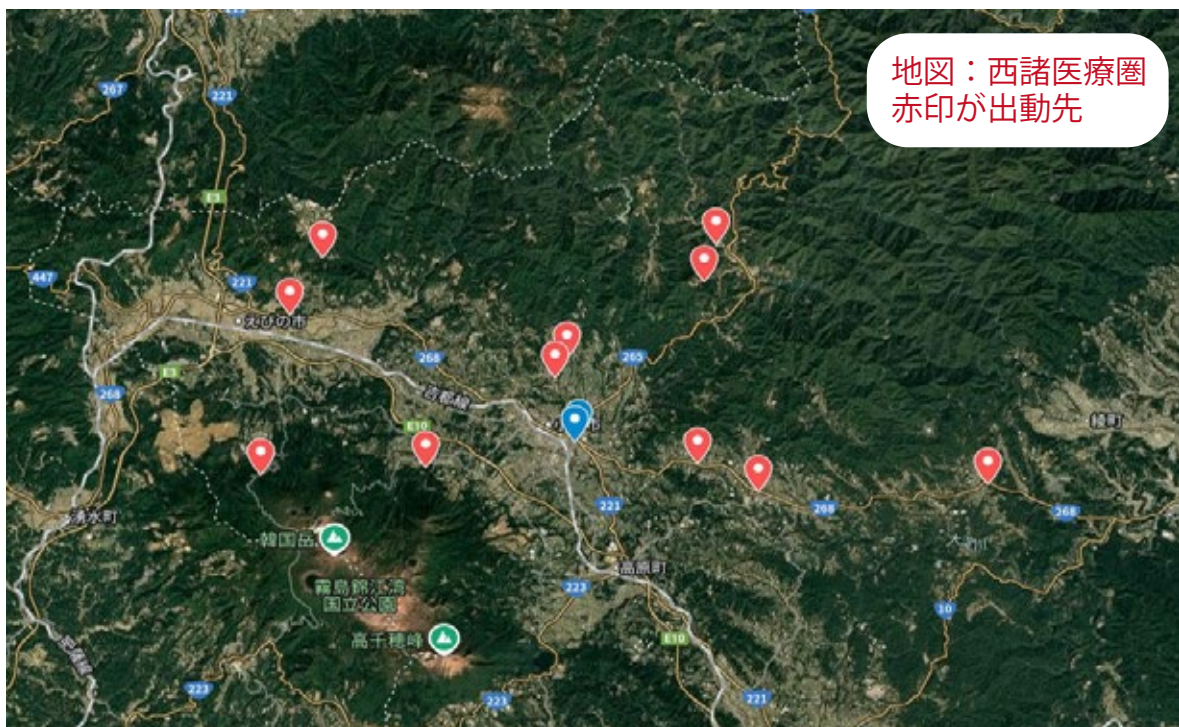
当科では西諸広域消防の協力のもと、昨年の12月から平日日勤帯限定でピックアップ方式によるドクターカーの運用を開始しました。本年1月7日の初回出動以降、10月時点で、要請15件に対して不応需は1件（応需率93.3%）で、2件は要請後にキャンセルとなりました。1件の多数傷病事故を含む12件15名に対応しました。ほぼ全例で現場にて静脈路を確保し、一部の重症例では気管挿管など適切な緊急医療介入を行っています。ドクターカーは今まで都城に依存していましたが、圧倒的速さで早期の現場医療投入ができるようになりました。

現在は外傷例や多数傷病例が主体ですが、非外傷性緊急例や重症例にも対応できるよう、スタッフ一同で取り組んでいます。

一方で、ピックアップ方式ゆえ車両と運転手を消防職員に依存せざるをえず、当科も少人数で対応している関係で運行不可の日が発生しており、運行対応率は78.6%でした。

ただ住民のニーズがあれば、今後は自前のドクターカーでの展開も検討していますので、皆様の御意見をお聞かせください。

救急科・総合診療科科長 遠藤 穰治



西諸華道連盟の皆様、
素敵なお花をありがとうございます。



外来紹介

12月に入り年末の慌ただしさが気になる季節となりました。当院外来スタッフ16名は、今年も感染症に負けない体と心をモットーに、日々、自身の健康管理に注意しながら冬を楽しんでいます。

今回は、令和6年12月から導入となりました*「ピックアップ式ドクターカー」について紹介します。当院と西諸広域行政事務組合は、医師等の現場投入活動実施に関する協定を結びました。重症が予測される外傷や急病に、救急隊と共に医師・看護師がいち早く駆けつけ医療を開始し、命をつなぐ活動を行っています。私達の住む西諸地区は、中山間地域の為、労働災害も多く、導入後約20件の現場活動を行いました。要請に備え、外来では救急科医師と共に、クリティカルケア認定看護師が主体となり外傷シミュレーションの実施と振り返り学習を行っています。また、*グラウンドナースの育成と技術の維持向上にも努めています。さらに、西諸広域消防署職員との救急懇話会やドクターカー検証会を通し、症例の振り返りを行っています。

関係各所と連携をとり地域の皆様が安心して社会生活を営むことができるよう、外来看護師として日々、学びを深めていきます。

外来 副看護師長 大神 洋子

*ピックアップ式ドクターカー：救急要請時に通信司令部から、医師へホットライン出動要請が入る。医師・看護師は直ちに活動準備を行い、手配された救急車両に同乗し医療活動を行う。

*グラウンドナース：病院外の救急診療において、主にドクターカー等で医師と共に現場に出動し救急看護活動を行う看護師。



検査室紹介

検査室では、血液検査や尿検査、心電図、超音波検査など、さまざまな検査を行っています。さらに、今年7月からは新たに細菌検査も開始しました。

今回は、大腸菌（Escherichia coli）についてお話しします。

大腸菌は、下痢や食中毒など腸の感染症だけでなく、尿や血液など腸以外の部位に侵入して起こる感染症など、幅広い感染症の原因菌となっています。私たち臨床検査技師は、菌を同定した後、その菌に有効な薬を選択するために感受性検査を行っています。大腸菌は通常、多くの薬に対して感受性を示すため、これまでは治療しやすい菌とされてきました。しかし近年、薬剤に対して耐性を持つ大腸菌が増加しており、治療が難しくなっています。私たちは、この耐性を持つ大腸菌に特に注意を払い、検出された際には速やかに報告し、接触予防策を早急に講じることで拡散防止に努めています。

私は今年度から新規職員として臨床検査に携わることになりました。これから専門的な知識や技術を身につけ、医療に貢献できるよう努力してまいります。

検査室 臨床検査技師 福田 大将



薬 剤 室 紹 介

薬剤室では、薬の適正使用を推進するために他職種と連携し、入院・外来を問わず地域と協力して、切れ目のない医療体制づくりに取り組んでいます。

薬を「いつ飲むか」という時間や食事との関係は、安全で効果的に薬を使うための大切なポイントです。

～食事のタイミングに注意が必要な薬～

すべての薬が食後に服用するとは限りません。

たとえば、糖尿病治療薬（グリニド系など）は、食後に飲むと低血糖を起こすおそれがあるため、食直前の服用が原則です。

また、骨粗しょう症治療薬（ビスホスホネート製剤）は、食事によって吸収が大きく低下するため、起床後すぐの空腹時に水で服用し、その後 30 分は横にならないようにします。

～食事と関係が少ない薬もあります～

一方で、多くの薬は食事との関係が比較的少なく、毎日同じ時間帯で服用していれば効果に大きな差はありません。

大切なのは、飲み忘れずに継続して服用することです。

～複雑な場合は薬剤師へ～

服用タイミングが複雑でわかりにくい場合、服用回数が多い場合は、調整できることもありますので、遠慮なく保険薬局や病院の薬剤師にご相談ください。薬の効果を十分に引き出すためには、薬ごとに適した服用タイミングを守ることが大切です。自己判断で時間を変えたり、まとめて飲んだりするのは避けましょう。

薬剤室室長 石橋 直哉



スタッフのひとこと

早いもので今年も残すところ、あとわずかとなりました。
皆さん今年はどんな1年だったでしょうか？

私は患者さんの笑顔に支えられ、仕事仲間や家族に支えられ
大変ありがたい1年でした。今年は誰かに支えられてばかりだったので、来年は誰かの役に立てるよう
頑張りたいと思います。

年末をひかえ慌ただしくなる頃かと思いますが、お体に気をつけて良き年をお迎えください。

地域医療連携室 医師事務作業補助者 北方 仁美



連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp